



第15回東京大会を振り返って

大会長 細田満和子



2026 年 5 月 30 日、31 日の 2 日間、東京大学伊藤謝恩ホールにおいて、第 15 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会を開催することができました。大会テーマは「新たな世界とつながるチャレンジ～再生する日常～」でした。脳損傷を経験すると、それまでの日常が大きく変化します。しかし、新たな人や社会とつながり、自らの可能性を見出すことで、新しい日常を築いていくことができます。本大会では、デンマークからのゲストを迎え、海外の実践から学ぶとともに、当事者、家族、医療・福祉の専門職、研究者など多様な立場の方々と同じ場に集い、経験や知恵を分かち合いました。そこには、支える側・支えられる側という区別を越え、互いに学び、力を与え合う「ケアリング・コミュニティ」の姿がありました。この大会で生まれた出会いとつながりが、それぞれの地域で新たな一歩につながることを願っています。開催にご尽力いただいた実行委員、登壇者、参加者、そしてすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

副大会長 吉井智晴

準備を進める中で印象に残っているのは、当事者と支援者が、それぞれの立場を持ちながらも、一緒になって大会をつくっていったことです。企画内容に沿って、意見を交わし、時には迷いながら、一つひとつ形にしていく。その過程そのものに、この学会が大切にしている「ケアリング・コミュニティ」の姿があったように感じています。

「そのひとらしく働くこと」について考える中で、働く場や制度を整えることと同時に、その人の思いや希望を周囲がどのように受け止めるのか、その人とともにどのような感情や関係性を育んでいくのかが、とても大切なのだと改めて感じました。高次脳機能障害のある方々のこれからを考えると、私たち一人ひとりが答えを持っているわけではありません。だからこそ、当事者、家族、支援者、そして地域のさまざまな人が出会い、語り合い、一緒に考えていくことに意味があるのだと思います。東京大会で生まれた出会いやつながりが、これからの日々の中でゆっくりと育ち、それぞれの「そのひとらしい未来」につながっていくことを願っています。



2026 年東京大会 アンケート結果

<大会全体の印象> 「とても良かった」78.8%、「良かった」21.2%

<感想・意見（抜粋）>

- ・海外の実践、新しい就労形態、コミュニティ、支援方法等を学びあいながら、互いにエンパワーメントされるシナジーな空間でした。特にコミュニティの価値を学びました。
- ・当事者主体の様々な活動が発信され、心が大きく動かされました。もっと多くの方に参加いただきたいと思いました。
- ・当事者・専門職・企業・海外など多視点から高次脳機能障害について見識が深まりました。司会が当事者の方々というのも素晴らしい！
- ・シンポジウムは、今回のテーマにぴったりで素晴らしい内容で、再生していく過程が本人・家族の話聞くことができてよかったです。
- ・障害のある方の面接、就職後、配置換えなど配慮していること、フォローなどエピソードが伺えればよかったです。
- ・今、話題の中心は、ピアと就労支援であることがわかりました。皆さん素晴らしい取り組みをしていますが、失敗事例をお持ちの方の話も聞きたいのが本音です。

<東京大会 YouTube 公開のお知らせ>

*ユーチューブにて、2026 年東京大会各プログラムを公開しています。公開期間：2026 年 12 月 20 日まで
[YouTube Japan] で「ケアコミ学会動画委員会」を検索➡「動画」から視聴出来ます。

けあ・こみニュースと学会の歩み 一つながりを紡いだ 10 年—

創刊から 10 年。大会や地域活動、就労、スポーツ、ピアサポートなど多様な実践を伝えてきた「けあ・こみニュース」当事者・家族・支援者とともに、つながりの輪を全国へ広げてきました。

※過去のニュースは、ホームページで公開しています。

【各号の主なタイトルと掲載写真一部】

1 号 2016 年 12 月

1. 「会報創刊に向けて」
2. 「第 6 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会を終えて」
3. 「＊地域の活動紹介」東京目黒・品川・太田区家族会の活動



「第 6 回東京大会」



2 号 2017 年 4 月

1. 「第 7 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会北海道帯広大会開催」
2. 「＜帯広の活動紹介・『真冬の車いす』＞」
3. 「リハ・スポーツ教室開催報告」

「真冬の車いす」



3 号 2017 年 10 月

1. 「障がいを持つ人たちの山形・福島地域間交流会 開催しました！」
2. 「第 7 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会北海道帯広大会を終えて」
3. 「＜学会関連団体活動紹介＞ NPO 法人日本脳卒中者友の会」



「山形・福島地域間交流」

4 号 2018 年 4 月

1. 「第 8 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会全国大会 しまね縁結び大会『縁、再び…そして愛』」
2. 「『伝え合うことから始める ～私達の高次脳機能障害～』」
3. 「砂漠の大回廊『敦煌』の旅再び ～日中障害者文化交流—撮影の旅～」



「第 8 回出雲大会」

「社会デザイン大賞」



5 号 2019 年 3 月

1. 「長谷川幹 理事長が『社会デザイン大賞』を受賞しました」
2. 「第 8 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会（しまね縁結び大会）のご報告」
3. 「ハイリハキッズ」



「障害者スポーツ活動」

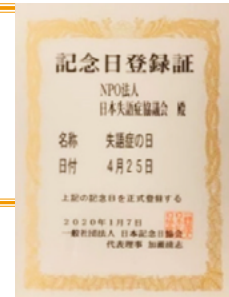
6 号 2019 年 10 月

1. 「2020 年パラリンピック開催間近！障害者スポーツ活動報告」
2. 「ポラリスの光（北海道帯広）」
3. 「神奈川県湘南二宮大会を振り返って」

NPO 法人日本失語症協議会

7 号 2020 年 5 月

1. 「『第 10 回・三重大会』延期のお知らせ」
2. 「『出雲 縁 i n g トークの会』」
3. 「ポラリスとかちの取り組み 2020」



8 号 2020 年 11 月

1. 「東京埼玉大会に向けて」
2. 「高次脳機能障害の就労と支援」
3. 「ステイ・ホームどうしてました？」

「第 10 回埼玉東京大会」



「文化芸術・スポーツ委員会活動」

9 号 2021 年 5 月

1. 「第 10 回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 埼玉・東京全国大会『なにが出来るか？脳損傷者、新しい生活様式～With コロナ時代～』」
2. 「特集 各委員会の活動報告」
3. 「当事者社会参加推進委員会」

10号 2021年10月

1. 「法人化6年経過して」
2. 「新理事紹介」
3. 「第10回埼玉・東京全国大会報告」

「第11回東京大会」



11号 2022年4月

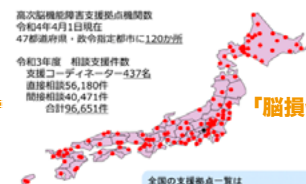
1. 「第11回東京全国大会『生き生きと生きる身体と心』」
2. 「ピアサポートの意義と役割 ～ケアリング・コミュニティの実践～」
3. 「ピアサポート活動紹介」

「脳損傷者とスポーツ」



高次脳機能障害支援拠点機関数
令和4年4月1日現在
47都道府県、政令指定都市に120以上
令和3年度 相談支援件数
支援コーディネーター437名
直接相談56,180件
間接相談40,471件
合計96,651件

「脳損傷者の就労と支援」



全国の支援拠点一覧は
高次脳機能障害情報・支援センターサイト参照
http://www.cafh.jp/foram_fullkyo/roadmap/

13号 2023年4月

1. 「沖縄大会大会長 挨拶」
2. 「脳損傷者の就労と支援」
3. 「『脳障害になった時にあるとよい知識 Part4』研修会報告」



「第12回沖縄大会」

14号 2023年10月

1. 「今期、学会体制がかわりました。」
2. 「沖縄大会を終えて ～チャレンジ『成しば何事ん成ゆる』～」
3. 「子どもの高次脳機能障害」

15号 2024年4月

1. 「2024年日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会開催」
2. 「高次脳機能障害者への支援」
3. 「失語症のある人の地域支援」

「失語症のある人の地域支援」



16号 2024年10月

1. 「第13回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会」
2. 「第13回東京大会シンポジスト、実行委員の声」
3. 「新委員会紹介『動画作成委員会』」

「東京大会シンポジウム」



17号 2025年4月

1. 「広島大会『ともに歩み、あすを拓く』」
2. 「『4月25日 失語症の日』」
3. 「『埼玉県若い失語症者のつどい&ミドル失語症者の会と「one step」の紹介』」

「若い失語症者のつどい」



18号 2025年10月

1. 「一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会第10期役員挨拶」
2. 「第14回広島大会を振り返って『ともに歩み、あすを拓く』」
3. 「2024年、デンマーク脳損傷者協会を訪ねて」

「広島大会当事者活動」



「第15回東京大会」



19号 2026年4月

1. 「一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会 第15回東京大会 大会長挨拶」
2. 「高次脳機能障害者への地域の取り組み紹介『ヒューマンライブラリーを主とした活動の展開』」
3. 「十勝から広がるピアサポートの可能性 ― 国際ワークショップ開催報告」

脳障害になった時あるとよい知識 Part8 研修会に登壇して

富田浩章（失語症当事者）

この度はシルバーウィーク連休の中、「失語症者の働きがいについて」の会場に来て頂いた皆様や Zoom にて参加された皆様にご聴講いただき、厚く御礼申し上げます。いろいろな立場の、当事者、家族、支援者、医療機関、等の方々ありがとうございました。（Zoom の接続が上手く出来ず申し訳御座いませんでした。）また、スタッフの皆様、事前の会場確保、企画から準備、当日のセッティング、後片付けまで、本当にありがとうございました。各方面の皆様により「失語症を知ってもらう！」ように引き続き宜しくお願い致します。

神山英梨奈（NPO法人就労継続支援B型 Work-With モノリス）

今回の登壇を通して、改めて「できることを増やす」だけではなく、その人の強みや思いを見つけ、役割や働きがいにつなげていくことの大切さを感じました。他の発表からも、見えにくい作業を可視化することやマルチタスクをシングルタスクにすること、本人の得意・苦手を「トリセツ」のように整理することなど、支援者側が仕事の環境や伝え方を工夫する視点を学びました。

また、医療・福祉・就労支援などがそれぞれの専門性を持ち寄り、チームで職域を広げていくことも重要だと感じました。今回の学びを、本人の「やってみたい」を引き出し、「自分にも役割がある」と実感できる支援につなげていきたいと思います。

水野有希（日本女子体育大学体育学部スポーツ科学科）

「職域拡大と働きがい」をテーマに発表させていただきました。障害者就労の現状や法律の面から職域拡大の可能性を示すとともに、スムーズな復職や就労継続のための工夫として、自身の「トリセツ（やる気スイッチや充電方法の整理）」を作成することや、「受授力」を高めることの重要性を提案しました。さらに、周囲を巻き込みながら働き方を柔軟に調整していくことが、安定した就労、さらには働きがいにつながることを共有しました。当日は支援者や当事者の方々から現場の「生の声」や課題を伺い、働くことへの本音を直接聴くことができ、大変貴重な学びとなりました。机上の研究だけでは捉えきれない現場のリアルな温度感を深く実感しました。今回の気づきを皆さんと共有しつつ、就労支援の研究を実践的なものに育てていきたいと思っています。



私たちの自主グループ活動

『若い失語症者のつどい in 京都』

共同代表 緒方由紀子 事務局 水野

- 活動地域・・・京都府（参加者は他府県からもあり）
- 開催場所・・・京都光華大学（年度によっては外出企画もあり）
- 活動頻度・・・年3回～4回
- 活動時間・・・おおよそ13:00～16:00（2時間程度）
- 参加人数・・・30名～40名程度（当事者・支援者含む）
- 活動日程・・・①4月25日前後（425の日イベント）
②7月 第一もしくは第二土曜日（おこしやす七夕の会）
③12月 第一もしくは第二・三土曜日（おこしやすクリスマス会）
④（10月 外出企画 年度により開催あり）
- 活動内容・・・「自己紹介」「学生さんのゲーム」「交流会」「お茶」「演奏・合唱」などを軸にプラス
①全国同時開催 ②短冊作り ③プレゼント交換（④BBQ&秋の散策）

「若い失語症者のつどい in 京都」で検索すると活動詳細がでています。ぜひご覧ください。

AMEBA・・・<https://ameblo.jp/yoshiku449/>
Instagram・・・<https://www.instagram.com/yuky.08270/>
京都光華大学・・・<https://www.koka.ac.jp/news/>
その他問い合わせ 事務局 水野まで
メール・・・yoshiku449@gmail.com



編集後記

けあ・こみニュース 20 号の発行にあたり、多くの方々にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。今年は第 15 回東京大会の開催もあり、盛りだくさんの号となりました。前号に続き、広報誌の制作に携わることができたことを嬉しく思います。東京大会での様々な出会いや、自主グループの活動など、皆様の取り組みを通して、それぞれの場所で生まれているつながりや思いを感じることができました。こうした活動の様子が、少しでも誰かの勇気や力につながってしましたら嬉しく思います。おかげさまで、記念すべき 20 号を迎えることができました。これからも皆様の声や活動をお届けできる広報誌を目指して、努めてまいります。

西條寧音

『広報委員 山田幸恵さんが委員を退任されます。創刊号からの長期間、ありがとうございました。』 広報委員一同